

世界に冠たる名器

「ザ・シンフォニーホール」誕生秘話 vol.2



「音が見えるホール」をデザイン

「ホールは巨大な楽器」という考えのもとに、外観と内観に「音が見えるホール」を設計されたザ・シンフォニーホール。これまでにない、残響2秒の美しい音を奏でるクラシック音楽専用ホールにふさわしいデザインとは？ その設計家のこだわりや情熱を綴る。

外観も内観も、  
「音楽ホールらしさ」を追求

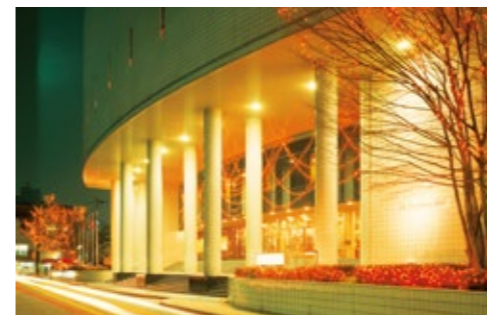
「空間をデザインするということは、単なる装飾を施すということではありません。ザ・シンフォニーホールの外観も内観も、音楽ホールにふさわしい機能を考え、た上でのデザインです」。そう語るのは当時、大成建設株式会社で設計のチーフを担当された美濃吉昭氏。

「ホールとは、音楽家が奏でる音に適切な響きを加え、熟成した音楽として観客に届ける『巨大な楽器』。その考えに基づいて、ザ・シンフォニーホールの外観は『白いピアノ』をイメージしてデザインされた。



「白いピアノ」を描いた外観

「巨大な楽器」をイメージして、外観は「白いピアノ」をデザイン。木々の緑とのコントラストが美しく、街並に調和している。



期待感膨らむ正面エントランス

広い階段、円柱から成るエントランス。訪れる人に特別な気分と期待感を演出し、自然と二階へ足を運んでもらえる仕掛けになっている。

客席でつくられた「人の壁」が、  
ホールの一体感を演出

ことができ距離も近く感じられ、臨場感が生まれます」。

確かに、ザ・シンフォニーホールは、一階の最後列や、二階と三階からでも舞台が見やすいと定評がある。

「演奏者がはるか彼方にあり、川の向こうから鳴る音を聴いているような、音が見えないホールをつくりたくはありませんでした。だから、演奏者と観客が音楽とともに楽しむことができる、音の見えるホール」をカタチにしたかったのです」。

さらに、美濃氏は続ける。「アリーナ形式にすることで『二階と三階のバルコニーサークルができ、ピープルウォール（人の壁）が生まれ、音楽を共有できるアリーナ形式』



音楽を共有できるアリーナ形式

二階と三階のバルコニーサークルができ、ピープルウォール（人の壁）が生まれ、一体感を演出。

壁が生まれます。また、舞台背面にも観客が座ることで、観客同士が自然に互いの顔を見合やすカタチになります。人の顔が見えると、ホール全体に一体感が生まれて、感動を分かち合えるんですよ」。

クラシック音楽専用ホールとは、味気のない単なる箱でも、過度な装飾に彩られた空間であつてもいけない。「巨大な楽器」として、演奏家と観客がともに奏でる、豊かな音が見えるようにデザインされたのがザ・シンフォニーホール。

設計者たちのホールへの強い思いが込められたその姿を、これからもずっと、大切に受け継いでいきたい。

次号では、ザ・シンフォニーホールの音響設計についてご紹介いたします。ご期待ください。



した演奏家の奏でる音を感じながら聴いてもらうものです。ホールの聴衆が席に座って目にするのは、まず正面、次に天井です。だから、音楽ホールでは天井を含めた空間全体の雰囲気づくりが大切です」。

ザ・シンフォニーホールの正面には堂々たるパイプオルガンが据えられ、荘厳な雰囲気を作り出している。また、天井を見上げると、三角形のような形をした音の拡散体が幾つも吊られている。「音響担当者から、天井に拡散体をつけてほしいと要望があり、このデザインを着想するまで試行錯誤を重ねました。ザ・シンフォニーホールの美しい音の響きが、天から舞い降りてくるように、鳥の円舞をモチーフにした天井空間のデザインなんです」。

「先日、ザ・シンフォニーホールでブルックナーを聴きましたが、久しぶりにホールに入ると、アットホームで親しみやすさを感じました。『家庭的な雰囲気ね』とつぶやいた妻に、『音楽というのは、オケを囲んで皆で聴くものなんだよ』と話しました」と美濃氏は語る。

ザ・シンフォニーホールでは、舞台の四方を客席で囲むアリーナ形式を採用。また一般的なホールと比べて舞台の高さを低く設定している。その効果について美濃氏は説明する。「舞台を囲むことでさまざまな角度から観ることができ、また、舞台を低くし、演奏者を足下から眺める

「音が舞う」天井の拡散体

音響実験の結果、天井空間には拡散体を設置。試行錯誤の末、音が舞い降りるように「鳥」をイメージしてデザインされた。天井の凹凸も、実験の結果、エコー対策として生まれたもの。



親近感を高める舞台の高さ

舞台の高さを床面から0.75メートルと低く設定。一階の前方からでも舞台の床が見え、演奏者の上半身だけではなく足下から立体的に見られる。



音楽を共有できるアリーナ形式

二階と三階のバルコニーサークルができ、ピープルウォール（人の壁）が生まれ、一体感を演出。

Architect Profile



**美濃 吉昭**  
AE建築設計事務所 代表  
元大成建設株式会社 設計部 課長としてザ・シンフォニーホールの企画・設計を担当。アリーナ形式、「残響2秒」という、当時としては画期的なクラシック音楽専用ホールを完成。



海外20カ所以上のホールを視察。設計当時、30年以上も前の資料を今も大切に保管されている。